

家庭における幼児と絵本のかかわりの実態 I

— かかわりの実態、絵本選択の方針等について —

○横山 さやか・横山 範子・星野 ハナ ・ 横山 知弘 ・ 徳田 克己
(日本女子大学) (桐花教育研究所) (筑波大学附属豊学校) (筑波大学)

はじめに

私たちは、幼児の童話・昔話の理解、絵本とのかかわり方、保育者と童話・昔話のかかわりについての詳細な分析を行っており、その結果を日本読書学会および日本保育学会において継続的に発表してきた。それらの研究によって、家庭における絵本やビデオの所有の実態、親による読み聞かせの頻度、母親のお話の理解度などが幼児のお話の理解の程度に大きく影響しているなどの結果が得られている。

今回は1997年に実施した結果の概略を報告し、また1990年の同様の調査結果について一部分比較した。

方 法

1. 調査対象者および回収率

東京都、神奈川県、千葉県に住む1歳～6歳までの幼児 228名（1歳児31名、2歳児64名、3歳児69名、4歳児31名、5歳児19名、6歳児14名、男女とも 114名）とその母親を対象とした。対象者は、ボム・ド・クール幼児クラスに所属している者 310名に無記名の質問紙調査を依頼し、回答質問紙を回収できた者であった。したがって、回収率は73.5%となる。

対象とした幼児のうち、幼稚園に通っている者は63名、保育所に通っている者は7名であり、残りの158名は幼稚園・保育所には通わず幼児教室に通っている者であった。

2. 質問紙調査の項目と調査手続き

童話・昔話とのかかわりの実態を調べるために以下の調査項目を設定し、対象者に質問紙への回答を求めた。なお、調査は反応のゆがみを避けるために無記名で行われた。

- * 対象となる子供に兄や姉はいるか
- * 子供は絵本をどの程度読むか（3件法）
- * 子供は、家庭で一日にどの程度絵本に接しているか。平均して（ ）分程度
- * 子供は字が読めるか
- * 子供は、絵本をどのように読んでいるか
- * 子供に絵本を読んであげるのは主に誰か
- * テレビ・ビデオと絵本のどちらが好きか読める
- * 子供は外遊びと家の中の遊びのどちらが好きか
- * 絵本を借りるため図書館を利用するか（3件法）
- * 家庭に何冊ぐらい絵本があるか（5件法）
- * 購入する絵本はどのように選んでいるか（複数）
- * 購入する絵本の価格が気になるか
- * 購入する絵本を選ぶ際の配慮点はどこか（複数）
- * 絵本を与えることに目的があるとするならば、その一番大きなものは何か

結果の概要

前述した調査項目の結果を表1～表12に示した。以下に、特徴的な結果について、箇条書きで述べる。

- ① 1歳の頃から、ほぼ7割の子どもが毎日絵本にふれており（表1）、その平均時間は約30分である（表2）。この頻度は、本を自分ひとりで読むようになる小学生や中・高生に比べて多い。
- ② 3歳で約2割、4歳で約3割、5・6歳で9割以上がひらがな、カタカナを読むことができるようになる（表3）。文字を読めるようになる5・6歳になって絵本の文字を自分で読もうとしている（表4）。
- ③ 子供に本を読んであげる人は、圧倒的に母親が多いが、1～2歳では4割以上の父親が読んであげている（表5）。しかし、子供が大きくなるにつれ、本を読む場面での父親のかかわりは減少している。
- ④ 4歳以下の子供では絵本よりもテレビ・ビデオの方を好む傾向が顕著であるが、5・6歳になるとあまり差がなくなる（表6上段）。また、4歳以下の子供では圧倒的に家の中の遊びよりも外遊びを好むが、5・6歳ではその差が縮まっている（表6下段）。小学生では、習い事の増加、治安・事故の不安、テレビゲームの影響などから、外遊びが大変少なくなっているというが、同様の傾向があるのであろうか。
- ⑤ 地域にある図書館は、子供が年長になるにつれて積極的に利用されるようになってきている（表7）。生活範囲の拡大と経済的な理由が推測される。
- ⑥ 今回の対象者のうち、兄・姉がいない子供の家庭の絵本所有量は、当然ではあるが年齢が大きくなるにつれて増加している（表8）。5・6歳では半数以上の子供が50冊を超える絵本を持っている。
- ⑦ 絵本の購入にあたっては、母親と子供と一緒に書店に行き、母親が読ませたい本と子供が読みたい本を買う傾向がある（表9）。1歳児では母親が選ぶ本の他に家族や友人が勧めた本を買う傾向があるが、2歳以上では子供の意見が重くなる。
- ⑧ 購入する絵本の価格を気にしない母親が約半数であった（表10）。「ある程度までなら求める」とした母親もその価格の上限は高い。
- ⑨ 母親は絵本を選ぶ際に、「絵や色彩」「ストーリー」「子供が理解できる内容か」の3点を重視している（表11）。作者は年少ほど配慮されない。推薦者や出版社についてはほとんど考慮されていない。
- ⑩ 絵本の第一の目的は「情操を豊かにすること」が大半であり、知識獲得や文字習得ではない（表12）。しかし実際には、知識や文字習得への期待が大きいことを母親たちの言動から実感することもある。

表1. どの程度絵本を読むか (%)

年 齢 対象児数	1歳 31名	2歳 64名	3歳 69名	4歳 31名	5・6歳 33名
ほとんど読まない	0	2	7	0	0
時々読む	30	38	18	35	18
ほぼ毎日読む	70	60	75	65	82

表2. 子供が家庭で絵本に接する時間 (1日あたり)

平均時間 (分)	31	29	25	26	32
----------	----	----	----	----	----

表3. 子供の識字程度 (%)

かなすべて読める	0	0	7	20	63
不完全だが読める	0	3	13	13	31
名前のみ読める	3	18	30	50	6
読めない	97	79	49	17	0

表4. 子供の絵本の読み方 (%)

自分で文字も	1	4	11	22	82
自分では絵だけ	81	69	51	45	9
読んでもらう	18	27	38	33	9

表5. 子供に本を読んであげる人 (%) (複数回答)

母 親	97	98	96	94	97
父 親	42	45	32	16	14
祖 母	23	17	10	16	9
祖 父	0	6	1	3	0
兄	0	2	1	3	3
姉	0	0	4	0	3

表6. 子供の好み (%)

テレビ・ビデオの方が好き	69	81	78	83	57
絵本の方が好き	31	19	22	17	43
外遊び	93	85	80	90	68
家の中の遊び	7	15	20	10	32

表7. 絵本を借りるための図書館利用 (%)

よく利用する	10	10	28	26	42
時々利用する	19	25	26	32	33
利用しない	71	65	46	41	24

表8. 家庭にある絵本の冊数 (兄、姉のいない者、%)

年 齢 対象児数	1歳 26名	2歳 53名	3歳 54名	4歳 23名	5・6歳 25名
10冊以下	19	17	11	0	0
11~20冊	42	23	24	8	4
21~50冊	31	37	43	57	40
51冊以上	8	23	22	35	56

表9. 購入する絵本の選択方法 (%) ()は1990年数値

年 齢 対象児数	1歳 31名	2歳 64名	3歳 69名	4歳 31名	5・6歳 33名
1990年対象児数			85名	161	149名
母親が本屋で見つかる	90	89	87 (88)	97 (92)	91 (80)
子供が欲しいもの	58	70	77 (67)	77 (75)	79 (72)
親が子供の頃に読んだ	55	38	57 (52)	45 (41)	64 (51)
家族、友人などの勧めで	55	34	25 (35)	32 (22)	27 (23)
雑誌などで紹介されたもの	26	28	26 (32)	29 (30)	36 (33)
園や教室の先生の勧めで	10	13	20 (43)	35 (35)	39 (40)
図書館で読んで気に入った	10	13	17 (19)	16 (22)	30 (21)

表10. 購入する絵本の価格 (229名)

とても気になる	3%
ある程度まで	50% → 有効回答60名中
気にしていない	47%
1000円まで	30%
1500円まで	18%
2000円まで	38%
3000円まで	12%
5000円まで	2%

表11. 絵本選択時の配慮点 (%)

年 齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5・6歳
絵や色彩	90	86	86	90	82
ストーリー	81	73	83	90	82
理解できる内容か	74	63	62	81	70
登場人物・キャラクタ	48	53	52	45	42
表示の適年齢	29	27	29	23	33
ページ数	10	13	14	16	12
作者	6	9	16	16	21
推薦者	3	2	4	0	3
出版社	0	3	7	10	0

表12. 絵本を与える第一の目的 (%)

年 齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5・6歳
情操豊かにする	72	65	69	83	72
子供の楽しみ	14	26	20	10	25
知識を増やす	14	5	8	7	3
文字習得	0	4	3	0	0

参考文献

- 横山範子・横山さつき・横山知弘(1991) 幼児と童話・昔話とのかかわり, 桐花教育研究所紀要, 4, 3-8.
 田中・横山知・徳田(1990) 幼児教室に通う幼児と絵本とのかかわり, 日本読書学会第34回資料集, 60-65.